

### 3 明学レッドクロス（日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ）

2013年4月に明治学院大学は日本赤十字社とボランティア・パートナーシップを締結し、そのときに結成された「明学レッドクロス」の活動は、2016年度に新しい広がりをみせた。

日本のユースボランティア活動の活性化を目的に今年度結成された赤十字ユース委員会に委員として関わり、香港ユースとの協働プロジェクトには明学レッドクロスから6名が参加。8月には香港へのスタディツアーで、そのホスピタリティやユースボランティア主体のプログラム参加を通して大きな刺激を受けて、2月の香港ユースの来日時にも積極的に交流・協働活動に参加している。

これまでは明学レッドクロスの学生たちは、当センター内の他セクションの学生と連携しておこなう活動の機会がなかったが、2016年4月に起きた熊本地震後には、学内の学生ボランティア団体や他セクションとともに街頭募金活動に協力した。さらに両キャンパスでの募金活動を企画実施し、日本赤十字社からの情報による、本社での義援金窓口受付ボランティアにも参加するなど、大震災時に離れた地域の大学生に何ができるのかを、それぞれが考えて行動することとなった。

今回の経験は、赤十字のネットワークを生かした活動に取り組みながら、他の明学生と協力しあうことで、お互いの持ち味を生かしてさらに良い活動にしていくことができないか、考える機会ともなったと思う。

学内・国内・海外の同世代ボランティアとの交流や協働を通して、「同じ」であることを知り、同時に「違い」にも気づく。赤十字のさまざまな取り組みに挑戦して経験を重ねていくうちに、多様な世代のボランティア仲間との出会いもあることだろう。そこから「明学レッドクロスとしてどういう活動をしていきたいのか」「明学生らしい独自の継続的な活動とは何か」を一人ひとりが感じて、「自分はどうしていきたいのか」と次のステップへ勇気をもって踏みだしてほしいと願っている。

そして近い将来、明学レッドクロスに参加し継続的に活動する学生がもっと増え、赤十字とのパートナーシップを契機にボランティアに参加する明学生が増えていき、人道的な価値観やボランティア精神が明治学院大学に文化としてさらに広がっていくことを期待している。

（職員 宮城玲子）

#### ●2016年度「明学レッドクロス」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/22（金）	移動献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動（10名）
4/25（月）、4/27（水） ～4/30（土）	日本赤十字社本社での「熊本地震」義援金窓口受付ボランティアに参加（8名、教職員2名）
5/20（金）～5/31（火）	昼休み、戸塚まつりにて学内募金活動を実施（43名） 義援金送付先：日本赤十字社「平成28年熊本地震災災害義援金」 送金額：81,979円
6/18（土）	世界難民の日イベント「先が見えなくても～ヨーロッパをめざす難民のいま」でのボランティア（1名）
7/4（月）	メンバー募集説明会@横浜キャンパス
7/31（日）	「赤十字ユース委員会」（1名）

8/4 (木) ~8/9 (火)	中国紅十字会香港支部スタディツアー (4名) ※日赤ユース×香港ユース協働プロジェクトの一環
8/20 (土) ~8/22 (月)	赤十字ボランティア・リーダー研修会 (1名)
10/1 (土)・10/2 (日)	「グローバルフェスタ」(海外たすけあい)
10/17 (月)・10/18 (火)	移動献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動 (10/18:7名)
11/2 (水)・ 11/3 (木・祝)	大学祭「白金祭」で ・「くらら会」(同窓会ウィメンズクラブ)フリーマーケットをお手伝い ・熊本地震復興支援として「くまモンクッキー」を販売 (8名)
11/3 (木・祝)	日本赤十字社主催救護訓練に傷病者役ボランティアとして参加 (2名)
11/3 (木・祝) ~ 11/6 (日)	「青少年赤十字国際交流事業 JRC/RCY International Meeting,“Tokyo 2016”」国際交流ユースボランティア参加 (1名)
11/12 (土)	・明治学院礼拝堂献堂100周年記念礼拝にて「くまもと新町古町復興プロジェクト」への募金呼びかけ活動(明学レッドクロスセクションから1名) ・「赤十字シンポジウム」参加 (6名)
12/1 (木)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV』完成 (2名) <a href="http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/161201_004571.html">http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/161201_004571.html</a>
12/5 (月)	「くまもと新町古町復興プロジェクト」への支援金贈呈 @白金キャンパス 記念館(学生メンバー2名) ・明治学院礼拝堂献堂100周年記念礼拝での募金総額169,229円 ・記念礼拝のお祝い金20,000円、白金祭のクッキー売上利益7,780円 計197,009円を支援金として贈呈
12/6 (火) ~1/10 (火)	横浜図書館展示「国際協力と私 Make the better world」 ※「NHK 海外たすけあい」キャンペーン
12/16 (金)	「平成28年度赤十字ユース委員会等にかかる報告会」 ※学生メンバー1名が発表(職員1名参加)
2/3 (金) ~2/7 (火)	香港ユース来日による「スマイルチルドレンプロジェクト」(5名)
2月中旬~3月中旬	日本赤十字社 救急法の基礎講習(4名)、救急員養成講習(5名)を受講
3/1 (水)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV』完成 (2名) <a href="http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/170301_004688.html">http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/170301_004688.html</a>
3/3 (金)	「東京都赤十字血液センター」「有楽町献血ルーム」見学(4名、職員2名)

#### ◇香港ユースとの協働プロジェクト

目的	中国紅十字会香港支部のユースボランティアと同じ活動対象者へ支援をおこない、情報交換をおこなう。情報交換を通じて、互いの活動の幅を広げることが目的
日時、場所	2016年5月~現在、日本赤十字社
参加人数	他大学生も含めたプロジェクトメンバー11名(内、本学学生メンバー6名)

## 実施概要

WHAT program (World Humanitarian Advocator Training program) と称した人道学習を協働でおこなわないか、と中国紅十字会香港支部のユースボランティア (以下、香港ユース) から声がけされたことが、香港ユースとの協働プロジェクト始動のきっかけである。香港ユースと同じ対象者に向けて、香港、日本のユースがそれぞれの形で支援をおこない、活動情報を共有することで、互いの活動の幅を広げること、両国のネットワークやつながりを強めることを目的として始まった。プロジェクト実施に先立ち、8月には香港スタディツアーに参加。香港に約6日間赴き、現地ユースとともに「人道」に関する研修を受講した。

帰国後は、度重なる話し合いのもと、日本では6人に1人が貧困状態にあると言われていることから、「貧困の子ども」を共通活動対象者として掲げた。そこで、貧困の子どもたちに対して学習支援をおこなっている特定非営利活動法人キッズドアの学習会に参加することを決めた。キッズドアの学習支援活動に参加することで、貧困の子どもたちへのアプローチ方法を知ることが狙いである。子どもたちの笑顔につながってほしいという思いからこのプロジェクトを「スマイルチルドレンプロジェクト」と名付け、12月から現在まで活動している。今後も継続的に学習支援活動に参加し、貧困の子どもたちへの支援方法を模索していきたい。

## 感想・活動を通して得た学び

香港スタディツアーに参加して、実際に現地で活躍している香港ユースと人道について意見交換することができ、貴重な経験となった。人道研修を通して、赤十字の掲げる7原則とは何か、ボランティア活動をするうえでの心得を知ることができた。香港ユースの活動意欲を強く感じることで、自らのボランティア参加意欲もより高めることができた。また、香港ユースのおもてなしの心、ホスピタリティにも驚かされた。国境を越えて、活動報告をし合うことで新しい視点や考え方、支援を知ることができ、刺激を受けた。

## 今後に向けて

「スマイルチルドレンプロジェクト」の今後の目標として、赤十字の全国ネットワークや赤十字ならではのノウハウ (防災知識等) を利用してイベントを開催すること、私たちが新たな学習会を開くこと、小児科の院内学級への支援をおこなうことが挙げられている。NPO 法人に協力を仰ぎ、協働で活動を進めていくことは、日本赤十字社としても初めての取り組みである。まだ始動したばかりの活動であり、手探り状態であるが、香港ユースとの活動や情報交換、キッズドアが主催する学習会への参加、スマイルチルドレンプロジェクトメンバー間でのミーティングを通して、より良い活動につなげていきたいと考えている。今後は、NPO 法人のみならず学校の先生や他団体の協力も仰ぎつつ、子どもたちへのアプローチ方法を学ぶことも検討する予定である。

(学生メンバー 法学部政治学科)

## ◇赤十字ユース委員会

目的	①日本赤十字社のユースボランティアの活性化、②赤十字リーダー研修会参加
日時、場所	①2016年～、日本赤十字社本社 ②2016年8月20日(土)～8月22日(月)、オリンピック記念センター
参加人数	本学からは1名の参加 ①10名、②50名以上

## 実施概要

日本赤十字社のユースボランティア(以下、日赤ユース)活性化のために、毎月本社に集まり、提言・活動をおこなう。また、世界のユースと日本のユースをつなぐパイプ役としても機能する。これまでの活動としては、日赤ユースのFacebookページの開設や2016年の全国協議会へのオブザーバー参加などがある。赤十字ユース委員会は、四つのグループにわかれており(①東アジアユースネットワーク関連、②協議会関連、③研修関連、④委員会運営関連)、私は④のグループで、ミーティングの日程調整や板書等、会議の運営に尽力した。

また、赤十字リーダー研修会は、全国のボランティアとアクティビティを通して、ボランティアに必要なことは何か、ボランティアのいろはを学んだ。

## 感想・活動を通して得た学び

他大学の学生のみならず、社会人もいる議論の場に参加できたこと、ボランティアのためのボランティアとして何ができるか模索したことは、かつてない経験であり、刺激になった。

## 今後に向けて

2016年度いっぱい、任期満了を迎える。続投はしないが、赤十字ユース委員会としての活動、そして周りから学んだボランティアに対する意識を忘れず、今後の自分の活動に生かしたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

## ◇『RCV』編集委員

目的	日本赤十字社広報誌の作成
日時	2016年10月～2017年3月
参加人数	2名

## 実施概要

日本赤十字社の広報誌『RCV』の作成のため、①子どもの学習支援、②独居高齢者の二つのテーマで、現地取材をしたうえで広報誌作成に取り組んだ。①では仙台と長崎、②では滋賀県の奉仕団二団体と岐阜県を取材した。

## 感想・活動を通して得た学び

今回は、少人数での広報誌作成だったため、個人にかかる編集作業は多かった。それゆえに強い使命感にかられながら、取材先に足を運んだ。取材先では、活動者の世代を超えて絆を紡ぐ姿に感銘を受けた。また同時に、今日本が抱える問題、「貧困」や「高齢化」という問題に対して改めて考えさせられた。

**今後に向けて**

編集作業を通して、「貧困」や「高齢化」は、日本で生きていくうえで切っても切り離せない問題であり、決して他人事にすべきではない問題だと感じた。今回の活動で無事任期を終えたが、この活動で得た学びは一生の学びとして自分の今後に生かしたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

**◇青少年ユース国際交流事業****JRC/RCY International Meeting, “Tokyo 2016” 国際交流ユースボランティア**

目的	国内外の青少年赤十字メンバー約100名が交流を深め、国際理解・親善を促進し、リーダーシップを学ぶ
日時、場所	2016年11月3日(木・祝)～11月6日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加人数	1名

**実施概要**

国際理解・親善やリーダーシップを学ぶことを目的とし、海外(28国・地域)の青少年赤十字・赤新月メンバーと各都道府県代表赤十字メンバー(高校生)が「防災教育・災害対応」というテーマのもと、英語で意見交換や交流をする合宿がおこなわれた。私自身、高校2年生の時にこのプログラムに参加したことがあり、今度は企画・運営側に回ってサポートしたいという思いからユースボランティアとして参加した。

**感想・活動を通して得た学び**

本番の3か月ほど前から何度も会議を重ね、準備を進めた。参加してみて、裏方の苦勞を知ったと同時に他大学のユースボランティア、参加者の海外・日本両メンバーから日本赤十字社の職員の方々など、人脈が広がるよい機会になった。

**今後に向けて**

今回は語学奉仕団という立場から携われるよう英語の学習により一層力を入れてきたい。ボランティアは自分を成長させ、周りの環境をも変えてくれるものである。何か新しいことを始めたいと思っているそのあなた！ほんの少しの勇気を出して他者や自己実現のためにボランティアを始めてみませんか？

(学生メンバー 国際学部国際学科)

**◇「海外たすけあい」図書館展示**

目的	多くの学生に赤十字の活動や国際情勢に興味を持ってもらう
日時、場所	2016年12月6日(火)～2017年1月10日(火)、横浜図書館
参加人数	12名

**実施概要**

毎年おこなわれる歳末の「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの一環で実施。明学レッドクロス独自の企画として、少しでも多くの学生に赤十字や国際情勢に興味を持ってもらうため、約1か月間、



図書館1F「りぶら」にて展示をおこなった。“国際協力と私 Make the better world”をテーマに、赤十字および国際協力についての関連図書を選び、それぞれの本にポップをつけて、横浜キャンパスの図書館に展示した。

### 感想・活動を通して得た学び

図書館展示をするにあたり、明学レッドクロスのメンバーは自ら担当する本を読み、感じたことや話の内容をポップの中にも取り入れた。図書館展示をおこなうことで広く明学生に赤十字や国際協力について知ってもらえるよう、それぞれが工夫して手書きポップを作成した。これは明学レッドクロスの学生にとっても赤十字の理念を改めて学び、国際協力について考え直す良い機会になったと感じる。



### 今後に向けて

これまで明学レッドクロスは献血活動や広報活動、勉強会など日本赤十字社との活動に携わってきた。今回、横浜の図書館で展示をするのは昨年度に引き続き2度目であったが、この活動を来年度以降も続けていけたらと感じている。明学レッドクロスは日本赤十字社との協力のもと外部での活動も多いが、図書館展示のように学内での広報活動や献血活動なども活発化させていきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

### ◇移動献血会

目的	大学内で献血の呼びかけをおこなう
日時、場所、参加人数	①2016年4月22日(金) 12:30~16:30、白金キャンパス パレットゾーン前、10名 ②2016年10月17日(月)・18日(火) 11:00~15:00、白金キャンパス パレットゾーン前 (10/18:7名)
結果	①受付51名、献血38名 ②受付69名、献血49名

#### 実施概要

1日通して献血の呼びかけをおこなった。事前にはSNS(Facebook、Twitter)や立て看板を利用して、約1週間前から広報をおこなった。



### 感想・活動を通して得た学び

献血の呼びかけをおこなっていると、気づいてくれる学生が多い。献血に関するパネルや「けんけつちゃん(献血推進キャラクター)」のぬいぐるみなどを持っていると分かりやすく、近寄りやすいのではないかと感じた。

しかし当日の体調不良などで献血ができない人も少なくない。そのため、呼びかけの仕方はただ呼びかけるのではなく、考えなくてはならない部分もあると思う。

**今後に向けて**

献血の大切さを明学生に十分に伝えることができていないと感じている。これまでの献血の呼びかけで得たものや、血液センターでの見学を通して学んだものを生かしてこれからも活動をしていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

**◇血液センター、献血ルーム見学**

目的	献血の知識を深める
日時、場所	2017年3月3日(金) 東京都赤十字血液センター(辰巳)、有楽町献血ルーム(有楽町)
参加人数	学生4名、職員2名

**実施概要**

全国で10か所あるうちの一つである関東甲信越ブロックの血液センターに見学に行った。センターでは、献血した血液が輸血用血液になるまでの行程を知ることができる。

また、日本で最大規模である有楽町の献血ルームを訪問した。

**感想・活動を通して得た学び**

普段見ることのできない、献血した血液が輸血用の血液になるまでの行程を見ることのできる貴重な機会となった。実際に見学させていただき、徹底的に検査されていることがわかり、さらに安心感が強まった。輸血用の血液になるまでには多くの人々が関わっており、献血事業が成り立つことの大変さを感じるとともに、やはり人々の支えが大切だと思った。

有楽町の献血ルームは高級ホテルのロビーではないかと思ってしまうほどきれいで落ち着く空間だった。献血に来ていた人々は皆ゆったりと過ごしているように見えた。

**今後に向けて**

学内で献血の呼びかけをおこなう際に、これらの見学で得た知識を生かしていきたい。献血をなぜ必要としているのか、どのような人が必要としているのかを伝えるとともに、献血事業の大切さを明学生に広められるよう活動していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)